

# 参院選・兵庫選挙区で野党統一候補を実現させよう

## アベ政治から流れを変えるために 連帯兵庫みなせんアピール

安倍政権が発足してから、この12月で7年目に入ります。戦後レジュームからの転換を掲げる「アベ政治」は、この国の将来を不安の底へ引き連れようとしてきました。

戦争による大きな犠牲を払い、廃墟になった国土から出発した戦後の民主主義、平和主義、一人ひとりの人権と生き方を重んじる社会と国家のあり方を根底から覆し、軍事力を強化して「戦争のできる国」へ舵を切り替え、国民の生活面では格差社会を広げる経済政策をとり続けてきました。また、世界の潮流に背を向けて原発依存のエネルギー政策を続け、人口縮小社会への対応を怠り、将来の財政破綻を避ける政策を棚上げにして将来世代の不安を高めています。

私たちはその危機感を共有する人たちが集まり、こうした政治の流れを変えるとともに安倍政治の“総仕上げ”としての憲法9条改悪をストップさせるために、国会で立憲野党の勢力を広げる運動に取り組んできました。2回の国政選挙で「野党共闘」を促し“与野党一騎打ち”の選挙をたたかうように働きかけてきました。

2016年の参院選、2017年の衆院選ではこの国の国政選挙史上初めて野党共闘と市民の共同選挙が全国的に取り組みられ、一定の成果を挙げることはできましたが、衆参両院で与党改憲勢力に3分の2の議席を占有することを許してしまいました。

来年7月に行われる参院選挙では、何としても野党勢力の議席を伸ばし、アベ政治の暴走とアベ改憲をできない状況をつくりださねばならないと決意しています。

とりわけ兵庫県では参院の選挙区議席をすべて与党と与党補完勢力に占めさせています。前回2016年参院選では、定数が増えたにもかかわらず野党が2人の候補者を擁立し共倒れになった記憶は、トラウマになっています。また、今年の衆院選では立憲民主党が比例で復活当選した議席を得たものの、12の選挙区すべてで野党議席を失いました。

私たちは今年3月、来年の参院選を視野に連帯兵庫みなせんを再々出発させた際に、こうした教訓を踏まえて「兵庫選挙区での野党議席の奪還」を方針に掲げました。これまでの選挙の経緯と与野党の政治状況から野党が2議席（定数3）を得ることは極めて難しく、共倒れを避けて確実に議席を得るには「野党の候補者を一本化」するしかないという判断です。

この方針を一昨年以來「市民と野党の協議」を継続して重ねている兵庫県の野党組織代表者に提案して協議を重ねていますが、「複数区での候補者調整は行わない」という各党中央の方針がある中で、協議は難航しています。

政党の立場としては「複数区では党勢を拡大し、議席を伸ばす」こととなります。「野党議席の拡大」よりも「党勢の拡大」が優先することは理解しますが、市民の立場からは「将来の勢力拡大よりも、目の改憲阻止のためには一つでも多くの議席を確実に獲得して欲しい」ということです。

兵庫選挙区は全国各地と比べて与党勢力の公明、維新が強い地域で、現状では野党がそれぞれ別個に候補者を擁立して臨めば議席獲得は厳しい状況にあるという「特殊事情」があります。

連帯兵庫みなせんは市民の政治参加を広げるとともに、運動のウイングを広げるための方策を探る学習会を重ね「市民と野党の共闘」のすそ野を広げる努力も続けています。そのうえで「一本化できる候補、みんなが納得し、勝てる候補」を見出すため、私たちはこれまでの枠を超えた市民団体や個人ともつながり、最大限の努力をします。

国政選挙は現行では「政党選挙」になっていますが、もっと多くの市民が声を挙げることによって政党が市民の思いに近づき、ボトムアップ型の政党と選挙に転換できるはずで、政党に対して勇断を求めるとともに、心ある市民が声を挙げることによって、兵庫から新しい風が全国に広がることを祈ってやみません。

2018年12月

連帯兵庫みなせん（平和と立憲主義、いのちと暮らしを守る市民選挙・連帯兵庫）